

令和7年度 東光こども園における自己評価

令和7年10月

学校法人 東光学園 東光こども園

【評価】

5：優れて達成している 4：やや優れて達成している 3：概ね達成している

2：やや達成が不十分 1：全く達成できていない

	評価項目	内容		
1	保育の計画性	① 園の教育理念や教育目標を理解する	4	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標、キャッチフレーズを決めることで各々意識して、活動するうえでの基準となっている ・子どもの姿を受けて週案を計画作成できている ・1年のPDCAサイクルがうまく回り、次にいかせている ・年中保育室前の共有スペースのおままごとコーナーをリニューアルしたことで異年齢が集う場として定着した。今後もブームに合わせてレイアウトや玩具を再考していく。 ・子どものブームからより深める活動を取り入れることができた。警察ごっこブームから警察官に來園して頂いたりとより盛り上がりが見られた ・特に行事前は廃材や玩具の出しすぎ等がある。職員・学年で環境の清潔を保つよう心掛ける ・ショーやお店屋さんごっこなど異年齢交流機会を多く持つことができた
		① こども園教育要領を読み、園長や保育者と話し合っ理解に努める	3	
		② 指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	5	
		③ 安全で清潔感のある環境を構成する	3	
		④ 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	4	
		⑤ 幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	5	
		⑥ 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をする	4	
2	保育の在り方・幼児への対応	⑦ 自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす	4	
		⑧ 園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	3	<ul style="list-style-type: none"> ・以上児が廊下・階段を遊ぶときに走ってしまう。未満児との衝突もありえるので、年長児にどのようにしたら安全に過ごせるかを考えてもらい、自主的に守ろうとする見本となってもうことを進行中。 ・遊びの環境を整えごっこ遊びが盛り上がりたり、集中して遊ぶことができていた ・心のすずや心の鐘、メダルなどスモールステップで自信につながる保育ができた
		⑨ 幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる	5	
		⑩ 個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しを持って理解する	5	
		⑪ 幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	5	
		⑫ 幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	5	
⑬ 幼児の一人一人のありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	5			

		⑭ 幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける	5	
		⑮ 幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	5	
		⑯ 幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	5	
3	保育者としての資質の能力	⑰ 保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今年からInstagramでの発信をメインとして日々の様子を載せる工夫をした。発信回数も昨年よりも増やすことができた。 ・参観や行事を通し子どもの姿から今の活動に至っていること、また活動からの「育ち」伝えるよう心掛けた ・子どもの育ちを考え、関わり、自信や達成感につながる保育を心がけ成長を喜ぶことができている
		⑱ 職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	5	
		⑲ 教職員全員で一つのチームであることを自覚する	5	
		⑳ 幼児の成長を自分の喜びと感じる	5	
		㉑ 幼児と一緒に生活を創り出すことを楽しいと感じる	5	
4	保護者への対応	㉒ 保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	4	<ul style="list-style-type: none"> ・未満児は連絡アプリでその日の様子を伝えていますが、できるだけ保護者の方に直接伝え、安心して頂けるよう努めた ・職員間の風通しを良くし、保育について気軽に相談できる環境を作り、誕生会後の月1回の全体の職員会議の時間を有効に使っている。
		㉓ 保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	5	
		㉔ 電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	5	
		㉕ 話の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	5	
5	地域の自然や社会とのかかわり	㉖ 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける	5	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が率先して挨拶することで子どもも自然とあいさつするようになっている ・小学校との交流・情報共有の機会も増えている。年長から1年生の架け橋期を小学校や近隣の園と協力してスムーズな移行にしていきたい ・子育て支援や児童クラブも軌道に乗り地域の方のニーズにもこたえ、少しずつ知って頂けている
		㉗ 小学校の教育内容について理解するよう努める	3	
		㉘ 子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する	4	
6	研修と研究	㉙ 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	4	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた研修だけでなく、自ら課題を持って進んで研修を履修していきたい ・実践学会では自園の保育の特徴を発表し、県外の園の事例を沢山学ぶことができた ・研修参加後は他職員にもフィードバックしている。さらに自園での保育や環境について話し合うきっかけ作りや、より質の高い保育をしていきたい。
		㉚ 自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	4	
		㉛ 保育者としての専門性に関する研修・研究を行う	4	